

歳末放談会

新型コロナウイルス感染症 COVID-19： 医療現場と生活への影響

とき 令和2年10月31日（木）16:00～17:35
ところ 山口県医師会5階役員会議室

司会 定刻になりましたので、ただいまから恒例の歳末放談会を始めたいと思います。はじめに河村会長にご挨拶をお願いいたします。

河村会長 例年でありましたら、この会が始まることが私にとって忘年会の一番バッターとなっておりましたが、今年はそういう状況にはないのが残念です。本日は新型コロナウイルス感染症をテーマにお話いただくわけですが、全国的に発熱外来も始まっており、年末年始をどのように乗り切るかということで、ほとんどの業者が休みになりますので、県医師会としては、検査体制の充実を図ってまいります。

本日は新型コロナウイルス感染症に関する未来志向的なお話が聞けたらいいなと思っておりまので、よろしくをお願いいたします。

毎日の医療現場への影響について

司会 では、さっそく始めます。まず、毎日の医療現場への影響についてお話しいただけますか。

◆ 皆さん、ご存じだと思いますけれども、このCOVID-19の感染拡大が始まって一番感じたのは、患者さんの受診動向ですね。特に、耳鼻科と小児科は3分の1から、多いところでは半分ぐらい外来患者が減っていると思います。山口県は、昨年に比べて母子手帳の発行部数が全国で一番少なかったのですね。これは、どういうことになるかということ、やはり来年になったら子どもが減少することになり、20年、30年先までポディーブローのように効いて、このコロナが人口減の問題に拍車をかけてくるというようなことになるんじゃないかなと思って、それを心配しています。

司会 患者さんの受診控えについて、経験されたことがありましたか。毎日の感染者数の発表を聞いていても、県の東部と西部でも、だいぶ違いがあります。科によっても、違うと思います。

◆ 外科では、肺がんの患者さんで手術できない方を診ていますが、1例残念だったのは、抗がん



剤の治療をしていて、最初は転移があって手術ができていなかったんですけども、だいぶ小さくなって、手術ができそうな感じになり、PET等をして、遠隔転移がないので、手術を予定しようと思ったら、患者さんの息子さんが、病院に行ったらコロナになってしまったと言われました。本人は来たいと思っていたみたいですけども、家族の意見もあるので、しばらく来なくなった2~3か月の間に大きくなって、また治療をやり直すことになったのは、非常に残念な出来事ですね。

このように受診抑制が悪い方向に出た例もあったように思います。ただ、緊急手術なんかは、あまり減っていないですね。どうしてもやらないといけないような手術だけでしのぎましたが、通院患者は、かなり影響があったと思っています。

司会 本当は受診が必要なのに、控えてしまった患者さんも結構おられます。

◆ やはり風評被害が結構あると思います。実際、私たちの地域でも、なぜか知らないけれども、「ここにコロナの患者が行った」という、全く根も葉もない噂を立てられ、かなり患者さんが減った医療機関がありました。対策として、「コロナは関係ありません」をいう貼り紙をしたそうですが、「コロナ」と書いているだけで、もう患者さんは、それ以上見なくて帰ってしまうと言われてました。また、コロナの患者さんを受け入れている病院は、外来患者さんがかなり減っていました。当院にも、「あそこに行くと、うつされるかもしれないから来ました」という人が結構おられました。せっかく頑張ってコロナ患者を受け入れている拠点病院は、かなり経営的にダメージを受けている

のではないかと心配です。

司会 せめて、医療関係者は、きちんとニュートラルな立場で対応しなければいけないということですね。風評とかも大変で、地方のほうが都会以上に怖いものがありますね。

さっき、母子手帳の話が出ましたが、お産自体も減っているのでしょうか。

◆ 今年の5月の妊娠届の届け出数が、山口県が全国最下位で30%近く減ったというのですね。5月の妊娠届というと、来年の前半の出生数がぐっと減るんじゃないでしょうか。考えるのも怖くて嫌な数字ですけども。でも、4月、5月は一時的に受診を控えられている方も結構おられたので、今は、普通に受診されているかなという感じですよ。ステイホームでベビーブームが来るんじゃないかって、みんな言ってくれますけれども、それはありません。

司会 2年ぐらいたら、分かりますね。

感染予防の体験談で、「こんな苦労がありました」とか、生の声を聞かせていただけますか。一時期は、マスクや消毒液もなかなか手に入らなくて、苦労が多かったと思います。私もアクリル板のパーティションを買ったりして、出費が嵩みました。

◆ 内視鏡内科の立場からお話しします。感染症状を起こしている患者さんへの内科的対応にも苦慮しましたが、うちは上下部消化管の内視鏡検査を行っているので、内視鏡診療の対策も結構困りました。日本消化器内視鏡学会から最初に、新

出席者

広報委員

津永長門 岸本千種
川野豊一 石田健
渡邊恵幸 吉川功一

県医師会役員

会長 河村康明 常任理事 長谷川奈津江
副会長 今村孝子 理事 藤原崇
副会長 加藤智栄

型コロナウイルス感染症への消化器内視鏡診療の対応についてコメントが出たのが3月25日でした。内容は、「消化器内視鏡の施行にあたっては、特に経口・経鼻での施行では患者の咳嗽を誘発する場合もあり、エアロゾルによる医療従事者への感染も危惧されます。」というものでした。防護策については、無症候性のコロナ感染例も相次いでいたことから、フェイスシールド付きマスク(又はゴーグル+マスク)、手袋、長袖ガウン着用を推奨しますということとなり、ゴーグルを急いで取り寄せました。内視鏡検査自体を、積極的に行っていくべきかどうか、判断が難しいところでしたが、4月16日には同じく内視鏡学会から「新型コロナウイルス感染症に関する消化器内視鏡診療についてのQ & A」が作成され、「新規の内視鏡検査の予約に関して留意すべき点がありますか?」という問いに対して、「無症候性の感染者の報告も相次いでいますので緊急性のない内視鏡検査は延期を考慮することを推奨します。特に緊急事態宣言が発令された都府県においては、感染拡大を防ぎ、医療従事者を守るためにも強く推奨いたします。」となりましたので、基本的に無症候者のスクリーニングやサーベイランスの内視鏡検査は、ほとんど取りやめました。すでに検査予約済の患者に関しても、電話してご了承いただいた方に関しては当面延期としました。結局、内視鏡に関しては、4月～5月末までほぼキャンセルとしました。例年6月から開始される胃がん検診も、山口市は7月13日開始にずれ込むなど、影響はかなり大きかったです。

◆ PPEの不足についてですが、手術用の手袋が入らないと急に卸さんから言われ慌てたことがありました。ほかの会社に頼んでも手配できないと言われました。卸さんが言うには、メーカーから出荷される量が大学病院、総合病院の分だけで、開業医の分まではもらえない状態とのことでした。

それでなくても外来患者さんが春から減っている上に、手術もストップすると非常に困るわけですね。外来で使う手袋と違って、手術用の手袋については、術者の好みがあったりします。また、

白内障手術は車の運転免許更新のため受ける方も少なくありません。手袋が原因で手術ができなくなるかもと非常に焦りました。

もう一つは、どこの科も受診控えがありました。昨日、日医の中川会長が佐々木希ちゃんと「受診控えを止めよう」とテレビに出演なさっていたのを拝見しましたがけれども、ネットでは「控えようと思ったら控えられるのなら、年寄りの通院とか受診は無駄なんじゃないか」というような声ででていました。通院、受診自体を不要不急のものというように若い人は見なすわけです。

眼科では夏以降、久しぶりの患者さんが来ると、子どもはゲームをする時間が増え、近視が進んでいました。ご年配の女性で「コロナが怖くて、どこにも外出せず家にこもっていました」という方は、診察室に入ってらっしゃる様子を見るとずいぶん足腰が弱った印象です。そういう受診控えの負のところを、もっと医療サイド側でアピールしたいですね。

司会 手袋や備品は、何か月ぐらいで普通に入手できるようになりましたか。

◆ 元々かなり備蓄していたことと皆様のご協力で継続できました。

司会 ネットで注文したりとか。

◆ 患者さんに医療関係者が結構いらっしゃるので、情報収集やお願いをして取りあえずなんとかやりました。

司会 でも、そっちにエネルギーを取られますね。

◆ はい、本当に。いつ頃になれば供給されることがわかればまだ対処できますが、見通しがつかないので消耗しました。

司会 足が弱っていたという話がありましたけれども、私のところは、科は違いますが、「糖尿病が悪くなってしまった」と言う人が結構多かったです。家にばかりいて運動しなくなるし、ぱく

ばく食べてしまったと言う人が一人や二人じゃなかった。

◆ 幸いなことに、患者さんの減少はあまり見られませんでした。確かに老人の方が非常に多いですから、休みかたがた来られる方も中にはおられ、本当に医療を求めてというわけではないような感じはしますが、極端には減りませんでした。

今でも思うのですが、やはり診断に役に立つのはPCR検査ですが、最初の頃は保健所に電話をして許可をもらわないと検査ができない状態だったのです。私のところも、何回か電話したのですが、やはり断られるので、それが非常に残念でした。山口市だけでないと思いますけれども最近、PCR検査が、火・木曜日に限定されて、できるようになったということがありますね。それだけでも、だいぶ進んだのかなと思います。必要なのは急患のときの診断で、それができないというのは、ちょっと残念だと思っています。

◆ コロナで変わったことという、まず一つは、長期処方方を要求される患者さんがすごく増えてきて、私のところは1か月以上は出さないとやっているのですが、内科の先生に聞くと、「2か月、3か月出すと、もうコロナが収まっても、元には戻せない」と言われてます。あと、どさくさ紛れじゃないですけども、オンライン診療を初診から解禁するという話が進んでいますが、見落とし・誤診・成りすましとか、いろいろな問題が起こるのではないかと危惧しています。初診は、必ず対面で診察が必要と私は思いますが、そのへんはいかがでしょう。

◆ 日本医師会と意見が違っていたらまずいですけれども、オンライン診療は少なくとも医療圏の範囲内の有効な使用方法が望まれると思います。

司会 以前から、遠隔地とかで有効という意見はありましたね。

◆ 例えば山口県の見島などの離島では、凄く有

効だと思えます。それに対しては、日本医師会も決して「ノー」とは言っていないと思います。

司会 どういうふうに、それを使いこなしていくかが、これからの課題なのですね。コロナの影響で、今までになかったやり方が出てきたりとかはありますね。

◆ 地域では、やはり顔の見える関係というのが一番大切だと思います。

司会 都市部と地方あるいは離島とか、もっときめ細やかな設定が、今からできあがっていくのですね。オンライン診療に向いている科と、あまり向いていない科とがありますね。

◆ 内科や耳鼻科、小児科は、ちょっとよく分かりませんが、産婦人科は無理でしょう。

◆ 無理ですね。

司会 責任の所在なども、対面で診る以上に注意しないといけない点がありますね。

◆ そこが一番難しいと思います。

司会 患者さんにとっても、いざとなったらドクターの顔が見える関係があるのが安心と思います。

◆ オンライン診療で初診をやると、医療の質が相当落ちます。患者さんを診ずに診療するというのは、医学教育自体でもしていないですよ。だから、初診は、医療の質を極端に落とすし、いろいろなトラブルのもとではないかと思っています。

司会 初診からでもオンラインが始まりそうな勢いが、いつときありましたね。

◆ 診ている患者さんは、成り立つと思うんですけども。

◆ セカンドオピニオン的な発想でいけば、まあ、なんとかなるだろうけれども、やはり診ていない患者さんについては、言うことはできません。

◆ 私は今やっていないですし、あまり手を出したくないほうです。

◆ 地域医療への影響は、皆さんおっしゃったとおりだと思います。ただ、私は脳外科なんですけれども、実は正直それほど影響を感じていないんです。風邪などの急性の common disease の患者さんのクリニック受診がぐっと減っている傾向は間違いなくあるのだと思いますが、うちはもともと脳卒中とか認知症などがメインなのであまり受診数は変わっていません。軽い頭痛などでもやはり万が一、命に関わる事態ではないかと心配されての受診が多いですし、認知症でも生活への影響がでて困り果てた家族がようやく連れてきたみたいなパターンが多いので、コロナのリスクを押してでもあまり待てないという意識がある診療科なのだと思います。

しかし、影響が何もないわけではなく、たとえばそれほど急ぎの事態ではない脳外科とは直接関連のないような疾患で、例えば大学病院とか大きな病院にコンサルトしようとする、普段はみんな大喜びで行ってくるんですけど、今は全然行きたがらないんです。「ちょっと今はそこまでしたくない」という空気を感じます。また、ちょっと風邪っぽいときに今までは内科に行っていたのが「ここでついでにちょっと薬を出しといてよ」という人が増えたなどというのは凄く感じています。その他の影響といえば、やはり自院内での院内感染への気遣いで、待ち患者さんが院内で密をつくらないようにするため、いかに院内滞在時間を短縮するかなどは、いろいろ気を使いましたし、長期処方希望する人が多かったというのがありますね。

あと、やはり一番怖いのは、風評被害ということがあって、コロナ自体より、正直、風評被害のほうが怖いというのが、一般開業医の本音じゃないかなと思っています。特に市内初の患者さんが出る直前ぐらいが街中みんなの緊張度が一番高

まっていたように感じました。

宇部市の場合、8～9月で50人くらい感染者ができましたが、あれでパニックになるよりも、ドッと患者さんが出てからは、ちょっともう、しかたないかな、みたいなムードになって、むしろみんなプレッシャーがなくなったような空気を感じました。多分、田舎特有の、最初の1人には絶対なりたくない、村八分になりたくないみたいな空気が町中にみちていたのが、もうこれだけ出たら仮に自分になっても大丈夫だろうみたいな感じで、なにか今、逆に平穏になってきた感じがあります。高齢者はヒヤヒヤでしょうが、要するに若い世代ではコロナそのものよりも風評被害、差別のようなものを一番恐れているのかなと思います。その代わりに、僕なんかこういう市外に来ると、「宇部から来た」と言うと警戒されたりする感じはありますけども。

オンライン診療は、テレビなどを見ていると推奨するような報道をバンバンやっていたので、みんな言ってくるのかなど？思っていました。当院の患者さんの年齢層が高いのもあるのかもしれないですけども、実は一人もオンライン診療の問い合わせはおろか、「電話処方してください」すら誰も言ってこなかったのも、いまだにちょっと不思議ですね。都会はさておき、田舎ではまだまだ関心は低いのもかもしれません。そんな面倒なことをするより受診そのものを控えているというのもあるかもしれません。

市中のクリニックにおける医療現場の混乱はかなりあると思いますが、診療科によってもかなり差があるんだろうなと感じています。多分、小児科などの先生は本当に困っていらっしゃるのだらうなと思います。

あと一つ、今回のことで感じたのは、医師会の会議などの集まりがすべてキャンセルになるので、開業医同士の世間話がほとんどできない状態になって、特に春先あたりはとても不安でした。やってくるのは厚労省のFAXばかりで、実際、いま市内の医療がどうなっているのか分からないという不安は、かなりありましたね。

司会 「地域で感染者第1号になると住みづらく

なってしまう」とか、「自分が働いている会社に迷惑をかけるといけない」と皆さん凄く気を遣って用心していました。今までそんなに、出てはいないので、抑止力になっているとは思いますが。県の西部の方はどうですか。

◆ 下関は、何人か出ています。小倉で感染者がたくさん出ましたが、小倉と下関は通勤で人の往来が多くて、博多も結構出ていて、新幹線で新下関から博多へ通勤しています。下関で調べたら、ほとんどの人が感染した場所が分かり、分からなかった人は一人しかいません。だから下関は、それほど心配ないかと思えます。

司会 最初の頃の患者さんが、結構つらい目に遭ったという話を聞いて、みんな震え上がって用心した。

◆ 村八分になるというか。「先生が喋ったのか」って主治医が疑われて、主治医が「知らない」って言うと、次は会社の人間が喋ったんじゃないかと疑われたという話ですね。家族にはうつりましたが、それ以外の人には誰にもうつしていませんよ。

司会 仕事や家庭がうまくいかなくなってしまった人もいらっしゃるという噂も聞きました。

オンラインと言えば、オンライン飲み会が一時期流行りました。今は、あまり聞かなくなったと思うのですが。オンライン飲み会の経験がある方は、おられますか。

◆ 一回。パソコンとお酒の相性はよくない気がします。一人で飲んだほうがいいですね。

司会 やはり最初は、物珍しさがあったんでしょうね。でも、最近、全然聞かないですよ。

◆ オンライン診療の話に戻りますが、初診からのオンライン診療って、性機能障害と薄毛治療ぐらいしか思い浮かばないのですが。どのような疾患を対象に、どういうシーンを想定しているの

しょうか。

司会 最初の頃は、医療崩壊を防ぐために、オンライン診療で必要な薬を処方しましょうみたいな話だったと思います。

◆ IT 難民の私には、ちょっと想像がつかないんですけども、やはり国は、デジタル庁の創設とともに本気で考えているんじゃないかなと思います。先ほどの風評被害もそうですけれども、昔、明治時代の終わりぐらいに、群馬のほうでペストが流行した時に、ある医院で、その患者さんを診たという、凄く風評被害があったそうですが、一番守ってあげたのは、周囲の病院や医院だったそうです。だから、医師会がその役目を果たせば、風評被害というのは、なくなるんじゃないかなと思います。

司会 また、助成金や補助金は、手続きが結構大変なものが多いですね。医療従事者等を対象にした5万円の慰労金もネットで申請して、一旦私が受け取ってからスタッフに配らなくちゃいけないとか。その辺りは皆さん、いかがでしたか。

◆ コロナに関する助成金や支援金などは、凄く種類があるんですよ。多分、事務のほうで、そこまでなかなか追いつかないんじゃないかなと思います。結構、ややこしいです。もっとスムーズでスマートな方法があると思います。

◆ 手続きもそんなに簡単じゃなかったです。複雑ですね。昨日、自院で事務職員と一緒に、わいわい言いながら、やりました。「ちゃんとできたかね、これ」という感想です。

◆ 確かに申請そのものの複雑なので、僕も面倒だから無視していたんです。でも、お金がもらえるのだから職員のほうからすると、とても大事なことだったようで、頼みもしないのに事務員が勝手にやれるところまでやってくれて、最後に「先生、書類を準備したので申請していいですか」と。私も喜んで「どうぞ、どうぞ。どんどん進めてくだ

さい」という形で結果的には楽でした。経営側よりは、職員にどんどん率先してやってもらいたいのかもしれない。

◆ 私の所は、市医師会の毎月の定例会のときに、「面倒くさいからと放っておいてはいけません。職員さんの分もあるのだから、ちゃんと手続きしてください」という話がありました。

◆ コロナの検査等をしている病院に勤めていれば、非常勤やアルバイトでも、コロナ患者を実際診察していなくても貰えるんですよ。しかも、医師や看護師、事務職員なら分かるんですけども、こう言ったら悪いけれども、直接患者さんと接しない職員でも支給対象ですからね。ちょっと、お金をばらまきすぎじゃないかと思います。

◆ 多分、東日本大震災後に、復興特別取得税があったでしょう。ああいった、コロナの復興税金みたいなものが、あと1年か2年したら始まるんじゃないかなと思います。

司会 去年の12月末に「中国で新型の感染症が発生しています」というのを、ニュースで聞いた覚えはあります。今年1月の屋形船の騒動、2月のダイヤモンド・プリンセス号のあたりから、新型コロナウイルスというものを意識するようになったと思います。皆さん、いつごろから意識しておられましたか。私自身は、前の新型インフルエンザの時と同じく、それなりに騒ぎにならないことには収まらないだろうとは思いましたが、こんなに長期間に及ぶとは思ってなかったです。皆さんは、いかがでしたか。これは、ぜひ聞きたい。

◆ 2月の段階では、そんなに危機感がなかったんですよ。4月の終わりぐらいになって、もう一回、「PCRやったら？」って言ったら「分かりました」って。どうも考えてみると、そのときに国から助成金が出始めて、それで全部機械を買ってもらえて良かったです。

あと、山口県が注意しなくてはいけないのは、岩国基地があって、これは軍事機密だから、どれ

だけ流行っているか分からないでしょう。今は、昔のようなことはないけれども、第一次世界大戦時のスペイン風邪は全部、軍隊の中で流行ったんです。だけど、それは軍事機密だから言わなかったの、ああいう状況になったということです。岩国基地に日本人が1万人ぐらい毎日仕事に行くわけだから、何らかの影響が及ぶのは必至だと思います。

司会 先生は、いつごろから「これ、来るなあ」という感じがありましたか。

◆ 2月5日のダイヤモンド・プリンセス号の報道には危機感を持ちました。私の勤めている病院は、入院患者さんの多くが認知機能障害のある高齢者なので、職員も含め誰かが感染したら、ダイヤモンド・プリンセス号並みの危険がありますから。

まず、事業継続計画を立てました。院内で感染者がでたら、誰がどういうふうに行動したらいいか、また、何人感染したら、周辺のどの施設あるいは病院に、介護や看護の人をお願いしていくかということや、どの程度外部の業者を入れるかなどを計画に入れました。一番問題にしたのは、要である医師、栄養部、薬剤部が全滅しないことです。そのために各部署を2グループに分けて、お互いに接触することのない勤務をする対策を取りました。

この新型コロナウイルスがどういうものか、まだあの頃はそんなにはっきり分からなかったもので、過剰に怖がった面はありますが、なにかあったときには、どうにかしなきゃという感じで、準備だけは、ばっちりしました。闘う相手が多少見えてきてからは、多少ルーズにはなっていますが、今でも医局での昼食はなるべく一人ずつ時間差で、あるいは十分離れて食べるなどに気を付けてはいます。ダイヤモンド・プリンセス号の事例がなかったら、そんなに戦々恐々としなかったかもしれないけれども、あのおかげで、かなり現実味を帯びてきましたので、準備だけは、その時期すごく頑張りました。

司会 はっきりと分かりやすい事例があると、皆さんの関心が高まるということですね。先生は、如何ですか。いつごろから「これは、いけん」という危機感を持ちましたか。

◆ 僕の場合は、そんなに危機感は、持ってなかったんですけども、医療者ですから、うつっつてはいけないというのは、まずありました。当初の予想として、夏場になって終息してくれたらいいかなと思っていましたが、そんなに収まらなかったですね。その予想は外れました。

あとは、行事などが、ほとんどなくなったことも、寂しいなという感じのほうが、自分としては大きかったような気がします。感染してはいけないというのが意識として絶えずあり、あまり出歩かないようにしていました。

◆ 去年の12月、「中国で原因不明の肺炎」のニュースで、「ヒトからヒトへの感染は認められていません」と、繰り返していました。「まだ認められていないから安心していい」のか、「今のうちに備えなさい」なのかと思いつつ聞いていました。その後、感染爆発するまでに、1か月の時間的余裕があった。「そんなことを言っている間に、できた準備とかもあったのに」と後から思いました。「マスクを少し買っておこうか、花粉症もあるし」くらいしか思いつかなかった。

◆ 政府も遅いと思いましたが、WHOも、凄く遅いですよね。世界の人々の健康を守る機関にしては、あれじゃ、あんまり意味がないですね。対応が遅かったと思います。

あともう一つ、マスクとかもそうですけれども、できるだけ県内で、そういうものをつくる産業が一つ二つはないと、やはり迅速に、そういうマスクでもガウンでも、回らないんじゃないかなと思いました。

司会 経験を活かして、次にまた感染症は来ると考えて、県医師会で、ある程度備蓄をしておくとかは、いかがでしょうか。

◆ 今、考えているんですけども、一つはJMATの中で出ていく人たちが持っていけなくてはいけないので、その中で備蓄を考えています。

司会 台風みたいに、準備できる具体的なことがわかると良いですね。また来ると思います。それは10年後か20年後か分からないですけども。

話は変わりますが、学校が3月2日から急に休校になりました。それも発表が2月26日で、1週間で、休みになりました。その影響で、困ったこととかがありましたら、体験談を教えてくださいませんか。

◆ 小野田でクラスターが発生した時、小さなお子さんがいらっしゃる看護師さんとかドクターは、濃厚接触者じゃないかということで、もし感染していたら、クラスターで増幅して大変なことになるので、急遽帰ったようなことがありました。あのときはちょっと、恐怖みたいなものを感じましたが、幸いなことに感染していなかったからよかったです。

最初は症状がないのが一番の問題で、最初の2日間とかは、全く症状がない間に感染させているということが一番怖くて、もし学校などで感染していったら、その学校に子どもがいる医療者自体が2週間出てこられませんか。だから医療崩壊みたいになるかもしれないということは思いました。

司会 子どもさんが突然、休校になったことで職員さんが出勤できなくなったりとか無かったですか。

◆ 一病棟で2人くらいが出られなくなりましたが、他の人が非常によく理解して、カバーしてくれました。ただ、その時に有給休暇を使うのか、あるいは特別休暇にするのかという問題が出ました。

司会 有給休暇にするか特別休暇にするかは結構むずかしいですね。本人が希望して休んでいるわけではないから、特別休暇になるのでしょうか。

◆ 当院でも、持病で県外の病院にどうしても受診しなければならないとか、県外にいる子どもが病気をし手術に付き添わないといけないという看護師さんがいて、やはり、帰って来ても、2週間は自宅待機させました。有給にするかどうかという点については、不利益にならないように処理しました。

司会 ほかの職員さんは、文句を言わないですか。

◆ みんなお互いさまという感じで、そういう人はいなかったので助かりました。先程、どの辺で危機感を持ったかという話がありましたが、やはり志村けんや岡江久美子などの有名人が亡くなったあたりから、ちょっとヤバいんじゃないかなという感じがしました。また、医療関係者よりも、目端が利く人はいて、ちょっと中国でなにかあったという時点で、「中国からマスクが来なくなる」と思われて、マスクを買い占めて、1億円儲けたという話は聞きました。

司会 対面で、ご本人をご覧になったのですか。

◆ ええ。

司会 でも、売れ残った在庫を抱えて、大変なことになってしまった人がいるという話も聞きました。

生活面への影響について

司会 後半は、皆さんの生活面への影響を教えてくださいましたらと思います。まず勉強会や会議が減りました。開催されてもオンラインやZoomなどを使ったりもありました。ことごとく行事が中止になりました。たとえば東京まで行かれる回数も、だいぶ減ったでしょうか。

◆ 2月の終わりに東京に行って、そのあと、今までに東京に1回、近県に2回行ったのみです。

司会 すべて公共交通機関で行かれたのですか。

◆ はい。もちろん、マスクを着用して。電車の中にも、そんなに人はおられないから。

司会 先生が東京に行かれたのは何月ごろで、どのような雰囲気、緊張状態とか、いかがでしたか。

◆ 私が飛行機で行った6月下旬には、席はかなり空いていましたが、通路側席はお互いが近いように感じて、ちょっと嫌でした。羽田空港はがらんとしていて、モノレールもとても人が少なく、一車両1人ぐらいの感じだったので、これは大丈夫と思って山手線に乗ってみたら、なんと、とても人が多くて、完全に密でした。普通に手すりも触って、本当に普通の感じだったので驚きました。帰りはタクシーにしました。飛行機を利用する人が少ないせいか、モノレールは少ないけれど、山手線は相変わらずの混雑ぶりでした。

司会 普通に通勤しておられるのでしょうか。やはり地方とだいぶ違いますね。私は、今年は2月から新幹線にも飛行機にも全然乗ってないのですが、それでもどうにか生活できています。

学会の総会も、一回延期になって、そのあと、結局、オンラインになりました。おかげで、かえってよく勉強できました。主催者の方々の大変なご尽力もあったと思います。家で好きな時にパソコンで参加することができて良かったです。

郡市医師会の定例の理事会などは対面でやっていらっしゃるのでしょうか。

◆ 5月、6月はほとんど中止でしたが、7月からはマスク・検温、そしてソーシャルディスタンスをとって行いました。Zoomとかでは話せない事柄もありますから。

司会 この広報委員会も、3月は中止になりましたね。会議に出られる方は皆さん、マスクはしているのでしょうか。

◆ 先生、もうマスクはお出かけの必需品です。

司会 本当ですね。でも、会議の後の会食は減っ

ていませんか。

◆ それはもう、ないですね。

◆ 話が済んだら即解散でした。納涼会などは、中止になりました。

◆ 宇部は春先から何もありません。今年の忘年会も中止です。会議も勉強会も5月までは、ずっとありませんでした。第1波が終息した頃からぼちぼち、「必要なものはやりましょう」ということで、最低限やっている感じです。理事会だけはずっと開いていて、コロナ対策会議もされているようでありがたい限りです。

Zoomは仕事で使ったことはありませんが、大学生の子どもがずっとZoomを使った講義でした。あと、趣味の関係の友人がたくさん東京にいるんですけど、やはり都内にある大きな会社の人たちは、みんなテレワークみたいですね。あまり山口県ではぴんとこないですけども。

先程オンライン飲み会の話もありましたが、県内の知人でわざわざやったことはありませんが、趣味仲間の遠くの人とは、誘われて、春先あたりはちょこちょこやりました。ここ最近は皆、飽きてきたのかやっていませんが。

司会 最初は、もの珍しかった。

◆ 慣れれば意外に、そんなに違和感はなかったですが、僕自身が自分で企画してやろうとまでは思わなかったです。

司会 際限なく、だらだらしてしまう可能性は、ありますね。

◆ 全国有床診療所連絡協議会の総会がありました。パーティションを設置して行っていました。

司会 皆さん、いろいろ工夫しておられますね。

◆ ホテルも、昼食は円形のテーブルに5人がけでしたが、5人にすると、隣にパーティション

もありますけれども、対面にも人がいないという方法でした。

◆ 勤め先の近くがいわゆる飲食街なのですが、昔は帰宅時にいろいろな匂いが漂っていましたが、それがなくなっていました。最近は、また、いろいろなものが匂ってくる頻度が増えてきていて、駐車場に止まっている車が増えています。そういうところは少しずつ戻ってきているんじゃないでしょうか。

司会 嗅覚で感じるところが凄いです。

◆ 「マスクはお出かけの必需品」ということですが、2月に教育セミナーのために福岡へ行きました。その時は、マスクをしている人は、2~3割しかいませんでした。2月の半ばだから、ダイヤモンド・プリンセス号の真っ最中。その頃、地元では、マスクをしている人は、あまり見かけなかったと思うし、自分も診察室でほとんどマスクをしていませんでした。こちらが咳き込んだりする時には着用していましたが、そうでなければ着けないことが多かった。今はほぼ全員、着けています。着けないよりは着けたほうが良いということでしょうか。しかし、テレビに出ている人が、フェースガードで喋りまくっているのは、止めさせるべきです。あれは全く防備にならないと思います。

◆ 私自身は、花粉症で例年2~3月にはマスクを毎日着けているので抵抗感は無かったです。

◆ 私の地元でも、3医療機関ほどコロナの患者を診られた医療機関がありましたが、濃厚接触者にならないように、きちんとマスクをして、手指消毒などをされていたので、PCR陰性を確認した上で、そのまま診療を続けられていました。やはり、医療機関の防衛策として、マスクと手指消毒など標準予防策実施していれば、コロナの患者が来られて診たとしても、感染することはないのではないかと思います。

司会 マスクは大事ですね。今年は、たまたま台風が上陸しなかったから良かったけど、台風の避難所が密になってしまうという不安がありました。幸い台風が逃げてくれて本当に良かったです。

◆ それとやはり、皆さん知っておられると思いますが、今年、インフルエンザ患者の発生が平年の1,000分の1ぐらいといわれていますよね。だから、発熱外来が11月1日から始まり、山口県では一日約4,000人という予測を立てていますけれども、そこまでは、患者は出ないのではないかなど、少しは期待しています。そういう意味でも、マスクなどの標準予防策は、最低、来春ぐらいいまで、きちんと続けていったほうがいいかなと思います。ワクチンも治療薬もすぐには出来そうにないので、もうしばらくは頑張っていくしかないかなと思います。

司会 できるという希望は、持っています。

◆ すべての細菌学者が言っているのは、日本は国民皆保険制度があるから、ほかの国に比べたら、感染者の数というのはゼロが3つも4つも違うと。これだけは褒めていますね。やはり、この国民皆保険制度を守らなくてはいけない。

◆ 最近の報道によると、コロナウイルスの感染後の抗体価は長持ちしないけれども、医療従事者は結構長持ちする。だから、普段から接触していると長持ちするところがあるのではないかなということでした。実際にワクチンを使って、その抗体がどれくらい持つかわかりませんが、小さな流行が起こるたびに感作されて、徐々に大きな流行が起こらなくなっていくのではないかなと思います。

◆ 感染治癒後の再感染なども報告はされていますよね。エビデンスはもちろんないのですが、普通のコロナの風邪みたいな感じで、新型コロナの抗体価はそんなに長持ちしないんじゃないかなという気はします。インフルエンザのように5か月程度で半減みたいな感じで。あとは最近よ

く聞く、抗体依存性感染増強といって、中途半端なワクチンを打つとかえって感染した時に体内にウイルスが取り込まれやすくなるとかいうのがあって、ワクチンもいろいろまだ問題はあるんだろうなど。仮に出来てもあまり楽観視は出来ないような気もします。また、できた時に国民全員分確保するって政府は言ってますけど、果たしてどれぐらいの国民が本当に打ってくれるのか、やや疑問な感じがしないでもないですね。日本人は概してワクチンに懐疑的なひとが多いような気がします、多分にマスコミの影響なのでしょうが。

あと、インフルエンザについては平年よりかなり減っているとすでに報道がありましたが、確かに今年これだけみんな気をつけたら減るんじゃないかなという気もします。ただ、このご時世、風邪で熱が出て、リスクを冒してまでわざわざインフルエンザの検査をやる医者があるかって言ったら、皆無に等しいような気がするので、そのバイアスもかなりあるのかなというのは感じます。

司会 インフルエンザの予防接種は、受けることができます。やれることはやって、それを積み重ねていく。

◆ やれることをやるのはいいけれども、やったあとに、それを検証するというのをしないと駄目だと思います。

司会 そうですね。まだ完全に振り返ってという時期ではないのですが、積み重ねていく、記録しておくことが大事だと思います。感染症は、人類が克服できるというものではなく、上手に付き合っていないといけないのだろうと思います。流行した時だけ盛り上がり、あと忘れてしまうのはもったいない。

ここで話題を変えまして、自粛生活で新たに知り組んだこと、あるいは止められたことなど、経験談をご披露していただけたらありがたいです。

◆ ソバ畑を作ったんですよ。ソバ畑って、ソバの種をまけばいいんですが、これが難しい。ソバはできるんだけど、下から順番にできていって、

できていったら、黒いソバの実がぼろぼろ落ちるんです。上のほうはまだ黒くなっていないから放っておくと、プロの方は、いつ刈り取るのか私にはよく分かりませんが、花が咲いて真っ白になるんですよ。そのあとどうしていいか分からない。

◆ 私の場合は、確かに会合が少なくなって、時間がすごく余ってきました。読書の量は増えました。それから、医療関係や他の分野のことを、メーカー、m3、あるいは日経メディカル等たくさんあるので、Webで勉強する時間は増えました。

あとは、やはり動かないようになるから、すぐ太ります。

視点を変えると、うちの近所に、ちょっとした高台があって空気が澄んでいる時には大分県の由布岳とかが見えます。今までは空気が澄んでいるときしか見えなかったのですが、今は、ほとんど見えます。環境にとっては、いいんじゃないかと思います。コロナ後の社会は、やはり変わるんじゃないですかね。時間外で働く人もだいぶ減ってきて、月に80時間を超える人は、少なくなっています。そういう意味では、働き方改革に自然となっているような感じもしないでもないです。

司会 先生、なにか変わったこととか。

◆ 会合や研究会、学会などが減って、家にいることが多くなったので、子供に向き合う時間が少しだけ増えたような気がします。つい先日、子供が「今日は医師会に行かないの?」と聞いてきたので、「今日は行かないよ」と笑顔で答えたところ、「えっ、行かないの?」と残念そうにされました。向き合える時間が増えてよかったかどうかは、親

子で温度差があるようですけど(笑)。

◆ 私は、十年来、二十年来、放置していたものを、だいぶ片付けることができました。前は、運動をする時はジムに行っていたのですが、今は外をよく歩くようになりました。てくてく歩くと、「ああ、こんなふうに葉っぱの色が変わっていくのか」とか発見があって、それがよかったです。映画館に気軽に行けるようになることを願っております。

◆ 今、諸先生方がおっしゃったように、自分の時間を持つことができるというのは、非常にありがたかったですね。やはり音楽を聴いたり、本を読んだり、そういうことが主になっています。一番よかったと思うのは、やはり奥さんに対する一つの言いわけができることです。だいたい私自身が、あまり外に出かけることが好きではないのですが、このたび、外に出歩かないようにという風潮が出てきて、「医者には率先して守らないといけない」という理由をつけまして、私は家の中に閉じこもっています。

◆ 私は、やはり立場上、県外に出かけるのは自粛しているので、山登りが出来ないのと、マラソンとか自転車の大会も、ことごとく中止になってしまい、その影響でかなり体重が増えました。それと、家にいることが多くなって、奥さんとの関係がちょっと微妙かなという気もします。

◆ 去年と変わったことといえば、ソフトバンクホークスが優勝したぐらいです。家にいる時間が多くなったので、やはり夜は、野球やスポーツを



見る時間が増えました。映画館に行く気はなかなか起こらないですね。仕方がないのでテレビで観ています。

司会 ネット配信で観られているのですか。

◆ 現在ネット配信はあまり利用していません。夜、出かけることは、確かに少なくなりました。

司会 健康的で何よりです。

◆ 食べて、家にいて、そのまま寝転がるから、だんだん体重が増えてきています。

◆ 私はテレビの料理番組を観て、料理は一つもできないけれども、いつかは作ってみようと思ってレシピだけメモしていました。食べるだけ食べて何もしないと太るから、スクワットをやっているうちに100回ぐらいできるようになりました。それから他にすることがないので、人が誰も住んでいない実家の物置が腐っていて、木が伸び放題だったので、1週間に2回くらい行って、植木を切って、草を抜いています。あとは、150メートルの低い山を歩いています。

司会 俳句は影響なしですか。

◆ 吟行しないから句ができない。できないから15年分ぐらい、俳句を落ちたものも、通ったものも全部書き留めています。落ちたものに手を入れると、それが通ることもあります。

司会 でも、今までのを見直す良い機会ですね。

◆ 私はレコードを集めるのが好きなのと、家にいるより暇さえあれば遠出をするのが好きなので、休みともなると全国津々浦々いろいろな街のレコード屋さんを巡るとというのが一番の楽しみだったんですが、それがことごとくできなくなったので、正直、本当に心底つまらない1年です。学会でいろいろなところに行くのも楽しかったのに、それもできなくなり、まあ、オンラインで見

てもいいんですけれども、あまり面白くないですね。

あと専門医更新用のポイントを取るのには、Web開催は便利かなと思います。アクセスが集中してネットがつながりにくい場合なんかはストレスフルですけども、最近はオンデマンドであとで再配信してくれるようになったので、だいぶ楽です。でも、正直、再生して流しているだけで見ていない人もいっぱいいるでしょうから、いったい何をしてるんだかなあ？とちょっと思ったりもしますけど。

どこにも行けないので、何をする時間が増えたかという・・・きっとスマホを見ている時間が増えただけです。いつも子どもに「スマホばかり見ていないで勉強しろ」って言ったあと、自分がスマホを見ている。我ながら情けないです。あんまり健康的じゃない、ただでさえ運動不足で不健康なのに・・・。

司会 何か運動を始めたとか。

◆ ご覧のとおり体型であまり運動はしていませんが、でも、いつもしようとは思っています。思っただけで実行できていませんが。

◆ 私は診療と家事が中心ですから、大きな変化はありませんが、やはり週末には時間ができて、家族と常磐公園を散歩するようになりました。ときわ湖を眺めながらしみじみと、「ああ、子供たちが巣立って五人家族が二人になったけれど、そのうち一人になるのだなあ」って、思うようになりました。林住期というものでしょうか。来し方行く末に思いを巡らすようになりました。大昔から感染症は、人類の歴史に大きな影響を与えてきたからなあ。こういうパンデミックに巡り合わせて、私も人生の節目かなと妙に内省的になりました。もし、コロナに感染して入院にでもなった場合、部屋が散らかっていたら、あまりにも恥ずかしいということで、片付けもしています。そういう時期になったのかもしれない。

どこか行きたいと思ったら、やはり銀座のデパートに行きたいです。最近は全然、買い物をし

ていないのに、カードの請求額が予想以上です。Amazonで1,000円、2,000円の必要のない物をポチるという情けない状態です。ああ、大物を買に行きたいです。

司会 来年のお楽しみですね。では、大トリの先生、お願いします。

◆ 時間がうまれたので、20年か30年片付けていなかった部屋を片付けてみたら、思い出がいっぱいで、特に子どもの小さいときの写真とかが出てきて、素敵なお時間でした。

また、高齢で基礎疾患もあるため身の危険を感じて、体力をつけようとして、6月下旬から、1日1万歩を目指して歩くようにしました。そうしたら案の定、運動習慣がないため、足底腱膜炎にかかってしまいました。かかとの激痛に8月から悩まされて、結局、今はウォーキングができていません。

句会も3月からは集まることができなくなったので、「テレ句会」になりました。「テレ句会」とは、FAXで各々句を送り良句を選んでいくという方法ですが、普通の句会のようにその場で即座に良句を選ぶのではなく、各々の俳句をじっくり鑑賞できますので楽しい時間となっています。

司会 そこまで徹底するとは先生ならではのですね。

最後、オリンピックの話をしたと思っていたのですが、何かご意見はありますか。私はできていると思っています。延期になったことで、逆にチャンスが生まれた選手もいるかもとか。プロ野球は、ちょっとスタートは遅れましたが、最後までやれました。高校野球などは、残念でしたが。

◆ 来年はやっぱり無理でしょう。まずアメリカが終息していないし、ヨーロッパは今、第3波の真っ只中で、ロックダウンしています。一旦終息するでしょうが、また春先に第4波が来ると、ちょうどオリンピックの予選などの時期に引っかけます。これで開催するというのは非常にリスクがありますよね。政府はそこをどう考えているのか。日本も、折角、発熱外来などでプレーキを

かけても、GoToキャンペーンでアクセルふかしていたら、事故しますよ。

司会 今度は延期というよりは中止になってしまふのでしょうかね。日本だけ見ていると、まあ、なんとかかなりそうかなという感じですが、ヨーロッパが、うまく終息できたら良いのですけれども。バドミントンの桃田選手や水泳の池江選手は、1年間延期になって、むしろラッキーだったかなと思います。

◆ やはり国際的な問題で、日本がいいからって言われてますが、だいたい、寒い時に流行するから、今から増えるでしょう。夏は、南半球は冬です。あそこから来て、世界中から人が集まってくるから多分、無理じゃないかと、中止にしたほうがいいんじゃないかと僕は思っています。

司会 去年の今ごろは「来年は絶対、東京オリンピック・パラリンピックがテーマ」と思っていました。延期になるとは夢にも思わなかったです。来年こそ、コロナ騒動を乗り越えたあとの、明るい話題で盛り上げられることを期待したいと思います。そろそろ定刻になりましたので、今村副会長、閉会のご挨拶をお願いします。

閉会挨拶

今村副会長 本来なら、この後、より濃厚で発展的な話ができる会があるところなのですが、今年は、これで皆さんとお別れになります。おうちに帰られて、例年であれば食べているはずでした美味しいごちそうを思い浮かべながらゆっくりお過ごしください。来年こそは、みんなで集まって、楽しく反省会ができますことを心から期待しております。本日は本当にありがとうございました。

司会 ありがとうございました。では、これにて令和2年の歳末放談会を終了したいと思います。皆さま、お疲れさまでした。